

統計行政の業務効率化（イメージ） ～統計棚卸し（統計版BPR）の実施～

統計委員会の取組

- 統計委員会に統計専門家、ユーザー、報告者、業務コンサルタント等からなる「統計棚卸チーム（仮称）」を設置
- 各府省の統計調査について統計精度の観点から見直すPDCAスキームの取組と合わせて、例えば、以下のようなイメージで毎年計画的に「統計棚卸し」（統計版BPR）を実施。その際、調査票情報の利活用の在り方、行政記録情報を併せて活用することによる精度の向上、報告者の負担軽減、分析の高度化についても検討

～9月

【統計委】

- ・ 統計棚卸チーム（仮称）において、当該年度の棚卸計画、棚卸対象、棚卸事項等を決定
- ・ 利活用に関する事項等は、EBPM推進委員会の意見を聴取

10～3月

【各府省⇒統計委】

- ・ 各府省からの書面報告・ヒアリング、報告者・ユーザー・EBPM推進統括官ヒアリング、自治体ヒアリング、業務プロセスの実情把握等を実施

4月以降

【統計委・各府省】

- ・ 棚卸しによって見出された課題の解決に向けた方針を整理し、概算要求に反映
- ・ 予算反映状況、進捗状況は、定期的にフォローアップ

※ 詳細の手法は、今後、BPR手法の専門家の意見も踏まえつつ具体化

各府省の取組

- 利活用の状況や寄せられるニーズ等を踏まえつつ、統計の状況を不断に把握することとし、EBPM推進統括官がこれを総括
- 統計委員会が、把握の際の視点等の手引きを、EBPM推進統括官に提供（把握の状況は、上記の棚卸しにおいてもフォローアップ）